

## 日光の仮面Ⅱ\* — 輪王寺の仮面Ⅰ —

北口 英雄

### Nikko Masks II — The Masks in the Rinno-JI I —

Hideo KITAGUCHI

輪王寺の歴史は、天平神護2年(766)に勝道上人が男体山頂をめざして大谷川を渡り、草庵(四本龍寺)を構えた時にはじまると言われている。登頂後の延暦3年(784)に中禪寺湖畔に神宮寺を建立する、これが中禪寺の発祥である。

平安時代には天台・真言両勢力の影響を受けながら神仏習合の霊地として発展していった。その後源頼朝や実朝の信任厚かった弁覚が24世座主となり、熊野修験の導入によって多くの修験者や僧侶が来山し、僧坊も数百に及び日光修験は大いに隆盛をみた。本坊も四本龍寺から光明院に移り、山務の統括を権別当座禅院がおこなうようになった。戦国時代には日光山衆徒が北条氏に加担したため、豊臣秀吉によって18万石の寺領を没収され、火の消えたように衰える。しかし天海が慶長18年(1613)に入山し、徳川家康も神霊として日光山に祀られたことによって再び蘇生する。現在は本坊輪王寺の下に、一山15ヵ院で構成された天台宗大本山の寺院である。

上記の輪王寺には、平安時代末期から江戸時代にかけての仮面が129件の156面が収蔵されている。種類も舞樂面、行道面、神事面、能面、奉納面と多種多様であり、銘文のあるものも多く質量ともにレベルの高い仮面群である。これらの作品を一度に掲載することは枚数の制限もあり、今回は能面のうち62面を掲載し、残り4面を含む他の仮面は次回にまわすことにした。なお解説については原則として名称、員数、法量、制作年、銘文、形状、品質構造、保存状態の順に記載した。法量はセンチメートル、重量はグラムである。作品解説番号は写真番号と同一である。

#### 〔能 面〕

1 翁 一面 木製彩色／縦19.0 幅16.8 奥9.2 重量245.0 天文5年(1536)

面裏朱漆銘「瀧尾當上人／禅智房／法印昌本／奉彩色願主本宮上人道義坊／昌設／天文五丙申六月日 彩細工宮内」。面裏表黒書銘(付属品)「奉献／女躰中宮御宝前／文政三辰年／三月吉祥日／當社二百廿代上人／醫王院大僧都覚憲」

冠型をあらわす。額と頬にシワを刻み、開口して笑う老貌相。

桐縦一材製、切顎は別材、薄肉彫。眼孔(への字形)と鼻孔を削り抜く。紐孔は左右の縁に各

一をうがつ。唇下と顎に植毛の跡がある。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。冠型は墨彩、面部は白彩、左側面の頭髮と口髭は墨描、唇は朱彩とする。面裏は後縁面を彫り残して割りあげ、全面に浅い丸刀痕を残し、生漆で木地固めをした上に透漆で仕上げる。

保存状態はぼうぼう眉と唇下・顎の植毛が亡失。紐は新補。右側面に麻布貼りによる補修の跡がある。表面彩色は後補である。なお木材の収縮や膠の劣化による表面彩色の剥落は、すべての仮面に見られた。以下木材の収縮と膠の劣化については省略する。

2 翁 一面 木製彩色／縦 19.8 幅 16.2 奥 7.8 重量 168.0 江戸時代初期

面裏焼印銘「天下一／友閑」

冠型をあらわす。面幅が広く額と頬にシワを刻み、顎に植毛をする老貌相。

桧縦一材製、切顎は別材。眼球（への字形）と鼻孔を割り抜く。紐孔は左右の縁と両口端にそれぞれうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色彩、冠型は墨彩と墨描、口髭と顎髭は墨描、唇は朱彩とする。面裏は平滑で、後縁面を平に彫り残して割りあげ、胡粉下地に墨漆塗とする。

保存状態はぼうぼう眉が亡失。表面彩色と植毛、紐は後補である。右側面に上縁から右眼尻を通して上唇脇に割損がある。また後補の彩色も一部剥落がある。近年、古色仕上げによる剥落どめが行なわれた。

3 黒色尉 一面 木製古色／縦 16.3 幅 10.8 奥 5.6 重量 97.0 室町時代

面裏朱書銘「寒澤／丁巳八下旬／正順」

額から眼の周囲、頬にシワを刻む老貌相。眉に植毛の跡あり、への字形の眼に鼻孔をひろげ不揃いの歯を現す。

桧縦一材製。眼部と鼻孔を割り抜く。紐孔は左の縁と鼻下の左右にある。表面は全面に浅いノミ跡を残す。眉に植毛のための木屎漆がある。唇は朱彩、上歯は墨彩とする。面裏は後縁面を平に彫り残して割りあげ、全面に縦状の丸刀痕を残す。表裏面ともに黒漆を薄く塗る。

保存状態は右側面が割損欠失、切顎と眉の植毛も亡失、紐は新補である。下瞼の中央に縦に割損がある。

4 黒色尉 一面 木製古色／縦 13.0 幅 11.8 奥 4.3 重量 55.0 室町時代

面裏墨書銘「(先)達／(南泉)房／□／寄進／□」( )内陰刻銘

額に波形のシワを4条刻み、頬に波紋状のシワを4条刻む。眼は三ヵ月形で、眼球と上瞼の間に段差を施す。眉と鼻下に植毛の跡がある。

桐縦一材製、薄肉彫。眼球と鼻孔を割り抜く。紐孔は右の縁にある。表面は素地、平滑に仕上げる。面裏は後縁面を薄く彫り残して平滑に割りあげ、黒漆を薄く塗る。

保存状態は切顎と植毛が亡失、左側面が割損欠失、額中央の紐孔は後補、紐は新補。銘文中の陰刻は後世に墨書銘の上におこなったものである。なお表裏面ともに煤で黒く汚れている。

5 黒色尉 一面 木製素地／縦 14.0 幅 12.7 奥 5.4 重量 75.0 福德3年(1491)

面裏墨書銘「奉施入／福德三／辛亥八下」

面長。眉は太く、への字形の眼に鼻孔をふくらませ、額と頬にシワを刻む老貌相。

桐縦一材製。眼孔と鼻孔を削り抜く。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。現状は外側の材が欠損して溝状である。面裏は素地、平滑に削りあげる。

保存状態は切顎が亡失。虫蝕がひどく側面材が欠損する。面裏は使用による汚れがある。

6 耐 一面 木製彩色／縦 20.2 幅 14.2 奥 6.4 重量 79.0 天文 23 年 (1554)

面裏墨書銘「奉施入／□ □／先達明圓坊／天文廿三甲寅八月廿日」

額と頬にシワを刻む。白眼が黒く瞳孔を逆立てる老貌相。耳は省略する。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔(楕円形)と鼻孔、上下の歯の間を削り抜く。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。面頂一列と顎に植毛の跡がある。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。眉は墨描、眼珠は墨彩、口髭と唇下は墨描、上下の歯は墨彩とする。面裏は素地、後縁面を薄く彫り残して平滑に削りあげる。

保存状態は悪く、左頭頂部から左紐孔にかけて欠損、右頭頂部から下顎右縁にかけて縦に割れが走り、上縁の一部が欠損する。割れに沿って一部朽損がある。面裏の墨書銘が一部読めないほど黒く汚れており、表面彩色も不明な部分がある。髭も後筆である。額と頬、顎に虫蝕がある。

7 耐 一面 木製素地／縦 17.8 幅 15.0 奥 6.5 重量 139.0 天正 5 年 (1577)

面裏墨書銘「唐澤宿／奉寄進／天正五年／丁丑八月十八日／(光金房重益)」( ) 内陰刻銘

眉と上脛に稜を立て、額と頬にシワを刻む老貌相。眼尻を少し吊り上げ、鼻孔をひろげ口を開いて二本の歯を表わす。耳は省略する。

桧縦一材製、厚肉彫。眼孔と鼻孔を削り抜く。口孔は歯を二本彫り残して削り抜く。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は素地、頭頂部にノミ跡を少し残すが、他は平滑に仕上げる。面裏は素地、後縁面を厚く彫り残して平滑に削りあげる。

保存状態は右瞳孔から顎の下縁にかけて割損。顎の植毛は亡失。右眉や右頬に小孔があり面裏はかなり汚れている。

8 耐 一面 木製古色／縦 20.6 幅 15.4 奥 9.5 重量 171.0 寛永 20 年 (1643)

面裏陰刻銘<sup>(彫力)</sup>「<sup>(彫力)</sup>奉／寄進／大僧正／寛永廿年五月十八日」

眉間に窘縮をあらわす。眼窩落ちこみ、八の字形に垂れる眉と眼、額と頬にシワを刻む老貌相。耳は後方の一部を省略する。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔(楕円形)と鼻孔、上歯と舌の間を削り抜く。紐孔は耳孔にうがつ。鼻下と顎に植毛の跡がある。表面に細かいノミ跡が全面にある。面裏は黒漆塗、後縁面を彫り残して削りあげ、ほぼ全面に丸刀痕を残す。

保存状態は眉目と左耳上が割損欠失。左口端から下縁にかけても割損、左耳から頬にかけて修理した跡がある。表面彩色は全面剥落しており、現状は近年の古色仕上げである。

9 耐 一面 木製古色／縦 19.8 幅 14.4 奥 9.5 重量 190.0 慶安 4 年 (1651)

面裏陰刻銘「奉納／本宮山／當上人大阿長雄乗音坊／慶安四年辛卯一月日」

眼窩が窪み、頬骨の突き出た老貌相。額にシワを刻み開口して笑う。耳を現す。

桧縦一材製、切顎は前後二材、薄肉彫。瞳孔（円形）と鼻孔を削りぬく。紐孔が耳孔とその上縁にある。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面裏は素地、後縁面を彫り残して平滑に削りあげる。

保存状態はきわめて悪く顎の前面材亡失。表裏面ともに油煙で黒く彩色は不明、その表面彩色も剥落がある。紐孔のうち上縁の孔が後補である。

10 尉 一面 木製彩色／縦 20.8 幅 15.7 奥 8.4 重量 135.0 室町時代末期

面裏墨書銘「奉寄進／三番禪頂口／二面之内」

眼窩窪んで頬骨突き出し、額と頬にシワを刻む老貌相。眼尻をさげ、開口して寂しげに笑う。両耳を現す。

桐縦一材製、薄肉彫。瞳孔（楕円形）と鼻孔、上歯と下唇の間を削り抜く。紐孔は両耳の上縁にうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色彩（黄褐色）、眼球の輪郭は墨描、白眼は朱彩、唇は赤彩、上歯は金泥塗とする。その他は不明である。面裏は素地、後縁面を薄く平に彫り残して平滑に削りあげる。

保存状態は表面彩色が全面に剥落する。現在は煤で汚れて黒く、文字も不鮮明である。

11 尉 一面 木製彩色／縦 20.8 幅 15.5 奥 8.9 重量 209.0 室町時代末期

額と頬にシワを刻み頭髪と口髭、顎髭に植毛する老貌相。眉を隆起させ、開口して上下の歯を現す。耳も全形を現す。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔（楕円形）と鼻孔、上下の歯の間を削り抜く。紐孔は両耳の上縁にうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。唇は朱彩、上下の歯は墨彩とする。面裏は後縁面を薄く彫り残して平滑に削りあげる。

保存状態は表裏面ともに油煙で黒く、表面彩色は不明。眼の周辺を中心に全面に剥落がある。植毛は亡失。両口端から顎の下縁にかけて割損。眉と眼球、頬骨、唇、耳が磨損する。

12 尉 一面 木製彩色／縦 18.9 幅 13.9 奥 7.9 重量 125.0 室町末期—江戸初期

頬骨の高い老貌相。頭部や顎に植毛の跡があり、尉独特の結髪である。耳は現さない。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔（楕円形）と鼻孔、口孔を削り抜く。紐孔は左右に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色彩（黄土色）、眉は墨描、白眼は黄土彩、眼頭と眼尻は墨彩、口髭と唇下は墨描、唇は朱彩、上歯は墨彩とする。頭部と顎に植毛の跡がある。面裏は後縁面を薄く彫り残して削りあげ、全面にノミ跡を不規則に残す。その上に渋柿に墨を混ぜたものを塗る。

保存状態は後補の彩色がかなり剥落、紐は新補である。

13 尉 一面 木製古色／縦 16.0 幅 15.2 奥 5.9 重量 80.0 室町時代

面裏墨書銘「奉施入 面／源長□真□□了□／(□□)／藤原(□)／唐澤」( )内陰刻銘

奥行の浅い正方形の老貌相。頭部や眉、口髭に植毛をして眼尻をさげ、細いシワを臉の下や口の周囲に刻み開口して上歯を見せる。耳の全形を現す。



桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔（円形）と鼻孔を削り抜く。紐孔は両耳の上縁に各一をうがつ。頭部と眉、鼻下、顎に植毛の跡がある。表面は古色、唇を朱彩にする以外は不明である。面裏は素地、後縁面を彫り残して削りあげる。

保存状態は植毛が亡失。虫蝕のため左耳下から顎にかけて欠失。その部分を古色復元する。

14 悪尉 一面 木製古色／縦 21.8 幅 18.5 奥 10.0 重量 206.0 室町末期－江戸初期

怪異な表情である。眼窩落ちこみ、眉間に窘縮とシワを現す。鼻孔は大きくふくらみ、鼻翼から顎に溝状の深いシワを刻み、開口して上歯を見せる。両耳の全形を現す。

縦一材製。瞳孔（円形）と鼻孔を削り抜く。紐孔は耳の上縁と耳の中央の2ヵ所にある。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。現状は油煙で黒く彩色は不明。面裏は後縁面を彫り残して削りあげる。現状は表面同様、真黒に焦げた状態である。

保存状態は切顎亡失、面頂から左眼頭を通して左上唇にかけて割損。他に左眉と上唇の上辺にも割損がある。紐孔のうち耳上の孔は後補である。近年古色仕上げによる修理がおこなわれた。

15 男（笑う男） 一面 木製彩色／縦 16.9 横 11.1 奥 6.2 重量 96.0 大永8年（1528）

面裏墨書銘「奉納／蓮花在住人／左衛門／大永八年戊子六月吉日」

怪貌、三日月形の眼をつりあげ、眉間に窘縮をあらわす。鼻翼をひろげ、結んだ唇が切り裂けたように大きく、無気味に笑う表情である。

桧縦一材製、厚肉彫。瞳孔（楕円形）と鼻孔を削りぬく。紐孔は左右に各一をうがつ。表面に細かいノミ跡を残し、胡粉下地に彩色を施す。面裏は素地、後縁面を厚く彫り残して削りあげ、全面に浅く細かい丸刀痕を残す。

保存状態は表面彩色が剥落、虫蝕による小孔がある。面裏は使用による汚れがある。

16 男（壮年） 一面 木製彩色／縦 20.2 幅 13.6 奥 6.0 重量 75.0 天文14年（1545）

面裏墨書銘「奉納□□／奉奇進一面／佛岩妙月房／天文十四年乙巳八月廿一日／天文十一年壬刀□□」

面長、薄い唇をした壮年男。墨彩の口髭太く、開口して上歯を現す。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔（方形）と鼻孔、上歯と下唇の間を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は黄褐色彩、頭髮と眉、口髭、眼頭と眼尻、上歯は墨彩、唇の輪郭を墨描、唇を朱彩とする。面裏は素地、後縁面を薄く彫り残して削りあげ、全面にノミ跡を不規則に残す。

保存状態は左頭頂部が一部欠損。後補の表面彩色が全面に剥落する。面裏の墨書銘も一部削られている。

17 男（壮年） 一面 木製古色／縦 19.6 幅 15.0 奥 8.0 重量 169.0 慶安4年（1651）

面裏陰刻銘「奉納／本宮山／當上人大阿長雄乗音坊／慶安四年辛卯三月日」

壮年の男。鼻柱太く、眼尻の少し吊りあがった下膨れのした容貌である。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔（円形）と鼻孔を削り抜く。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表

面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面裏は素地、後縁面を彫り残して割りあげ、全面に浅く細かい丸刀痕を規則的に残す。

保存状態は表裏ともに油煙で黒く、表面彩色は不明である。その彩色もかなり剥落する。右紐孔の縁に小割損がある。

18 男 一面 木製古色／縦 20.0 幅 14.1 奥 7.1 重量 125.0 慶安 4 年 (1651)

面裏陰刻銘「奉納／本宮山／當上人大阿長雄乗音坊／慶安四年辛卯三月日」

窘縮を現す。八の字形に垂れる眉、眼窩と頬の肉をそぎ落とし、寂しげに開口して上歯を見せる初老相。

桧縦一材製。瞳孔(円形)と鼻孔、上歯と下唇の間を割りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げる。面裏は後縁面を薄く彫り残して割りあげ、額に細く浅い丸刀痕を横に規則的に残し、頬から顎にかけてほぼ平滑に仕上げる。

保存状態は、左側面が一部割損欠失。当初は彩色面だったと思われるが、現状は近年の古色仕上げである。

19 男(壮年) 一面 木製彩色／縦 20.3 幅 14.0 奥 6.6 重量 116.0 室町時代

面裏陰刻銘「奉施入／瀧尾山／定順作／庚申／當上人宗安櫻本坊／清原徳春」

額から鼻にかけて広く、口髭から顎にかけて狭い壮年の男。眼窩くぼんで頬骨ふくらみ、開口して上下の歯を見せる。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔(円形)と鼻孔、上下の歯の間を割りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色彩、頭髮は墨彩と墨描、眉は墨描、白眼は白彩、眼頭と眼尻は墨彩と墨描、口髭は墨描、唇は朱彩、上下の歯は墨彩、顎髭は墨描とする。面裏は後縁面を薄く彫り残して割りあげ、全面に細く浅い丸刀痕を規則的に残す。その上に柿渋に墨を混ぜたものを塗る。

保存状態は、右側面の上縁から頬脇にかけて割損欠失。表面彩色も面頂や両側面、眉、鼻先、顎を中心に剥落がある。面裏の柿渋に墨を混ぜた塗り、陰刻銘に朱を入れたのも後補である。

20 男 一面 木製彩色／縦 20.0 幅 14.0 奥 6.8 重量 87.0 室町時代

面裏朱書銘「瀧尾山」

眼尻を釣りあげ、開口して上下の歯をあらわす。面頂を横一直線に切る。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔(角形)と鼻孔、上下の歯の間を割りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色彩(黄土色)、頭髮と眉、眼球の輪郭を墨描、白眼は黄土彩。眼頭と眼尻、口髭、顎髭は墨描。上下の歯は墨彩、唇は朱彩とする。面裏は後縁面を薄く平に彫り残して割りあげる。ほぼ全面に丸刀痕が規則的にあり、その上に柿渋に墨を混ぜたものを塗る。

保存状態は左頭頂部の一部が割損欠失。表面彩色も鼻先、顎を中心に剥落がある。

21 喝食 一面 木製彩色／縦 19.7 幅 13.7 奥 6.7 重量 131.0 室町時代末期

面裏墨書銘「瀧尾／昌吉」

額の上部に小さな銀杏形の前髪を結び、両側面に細毛が乱れて垂れる。眼尻を釣り上げ、薄い唇を開けて上歯をあらわす。全体に目鼻口の小さな面である。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔(楕円形)と鼻孔、上歯と下唇間を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色彩(黄味)、頭髮は墨彩と墨描、眉は墨彩、白眼は白彩、眼頭と眼尻は墨彩、唇は朱彩、上歯は墨彩とする。面裏は素地、後縁面を薄く彫り残して削りあげる。額の部分は少し幅広の丸刀痕があり、眼の部分から下方は細く浅い丸刀痕が縦にある。

保存状態は後補の彩色が全面に剥落する。

## 22 男(初老) 一面 木製素地／縦 20.9 幅 14.1 奥 75 重量 54.0 室町時代

面長、眼窩くぼみ頬の肉たるんだ初老相。鼻柱太く口を開いて上歯を見せ、耳の一部を現す。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔(角形)と鼻孔、口孔を削りぬく。紐孔は耳にうがつ。表面は現状素地、平滑に仕上げる。面裏も素地、後縁面を彫り残して削りあげる。全面に幅の広いノミ跡が不規則にある。

保存状態は右眼頭下に削りすぎによる小穴がある。上瞼が磨損、虫蝕もある。現状はかなり汚れている。

## 23 男 一面 木製古色／縦 17.3 幅 10.7 奥 5.1 重量 75.0 室町時代

額広く眉間にV字状のシワを浅く刻む。三日月形の眼に鼻孔をひろげ、上歯を現す。

<sup>(カ)</sup> 桧縦一材製、厚肉彫。眼孔と鼻孔を削りぬく。表面は平滑に仕上げて薄く黒漆を塗る。面裏は素地、浅くノミ跡を残して削りあげる。

保存状態は両側面から顎にかけて割損欠失、全面に虫蝕や傷がある。

## 24 男(老年) 一面 木製彩色／縦 19.8 幅 15.6 奥 8.1 重量 275.0 延享2年(1745)

面裏朱漆銘「寂光御宝前／面二ツ／延享二乙丑年／十二月／忍性坊智龍／妙境坊守妙」

額と頬、顎にシワを刻み隆起した口髭を両口端から顎に垂らす老貌相。面頂と顎を横一直線に切る。

桧縦一材製、額から鼻を含む上歯までと、下顎の二材を刳付け。厚肉彫、瞳孔(円形)と口孔を削りぬく。鼻孔は少し窪めるが面裏には貫通しない。紐孔は両耳にうがつ。表面は平滑に仕上げ胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色彩、眉は墨描、白眼は白彩、眼頭と眼尻は墨描、瞳孔の輪郭を墨描、唇は赤彩、上歯は白彩とする。面裏は後縁面を厚く平に彫り残して削りあげ、ノミ跡を不規則に残して墨を塗る。瞳孔の内側は墨彩、口孔は白彩とする。

保存状態は顎の前面材が亡失。後補彩色の左側面上部の一部が剥落。表面の汚れは桧材の脂が滲じみ出たものである。近年、古色仕上げによる修理が行なわれた。

## 25 女 一面 木製彩色／縦 21.5 幅 12.4 奥 6.1 重量 100.0 応仁3年(1469)

面裏墨書銘「奉 施入露若大夫／當上人十地房／(花押) 昌実／應仁三年七月七日」

細面の卵形。頭髮を中央で振り分け、添毛が細く乱れて側面に垂れる。眼尻を軽く釣り上げ、半ば口を開けて上歯を見せ、エクボを現す。口の両端に特殊な削り込みをいれる。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔(角形)と鼻孔、口孔を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色。頭髮は墨描と墨彩、眼球の輪郭を墨描、眼頭と眼尻に墨彩、唇の輪郭は墨描、唇は朱彩、上歯は墨彩とする。面裏は素地、後縁面を薄く平に彫り残して削りあげ、全面に細く浅い丸刀痕を規則的に残す。額の上方と鼻下、顎は横に、額の下方から鼻を含む両側面は縦にノミ跡を残す。

保存状態は面頂中央から左側面にかけてと、右側面の一部が欠損。後補の表面彩色は全面に剥落がある。眼球は胡粉の上に薄く墨が残っており、当初は黒眼だったと思われる。面裏の下唇から顎にかけてかなり汚れている。

26 女 一面 木製彩色／縦 21.1 幅 13.3 奥 6.3 重量 138.0 天文 2 年 (1533)

面裏墨書銘「日光山／瀧尾山／□コ／當上人／禪智房昌本／天文二年／卯月十五日」

額の広い面長の若女面。頭髮を左右に振り分け、四筋の添毛が両側面に垂れる。目鼻小さく、開口して上歯をあらわし口の両端に削り込みを入れる。

桐縦一材製、厚肉彫。瞳孔(角形)と鼻孔、上歯と下唇の間を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色、頭髮は墨描と墨彩、眼球の輪郭は墨描、眼球は白彩、眼頭と眼尻は墨彩、唇は朱彩とする。面裏は素地、後縁面を平に彫り残して平滑に削りあげる。表面の瞳孔に合わせて瞳孔と外枠を角形に彫る。

保存状態は墨書銘の日光山が別筆、一部が削られている。表面彩色の一部に剥落がある。

27 女 一面 木製彩色／縦 21.5 幅 13.0 奥 7.4 重量 197.0 天正 11 年 (1583)

面裏墨書銘「圀寄進／瀧尾山／因十一年癸未／出目新三郎／固久」(□は文字の上に一部陰刻した跡がある。)

頭髮を左右に振り分け、四筋の添毛が側面に垂れる。広い額に高眉を現し、眼や口許に色香のただよう表情豊かな女面である。

桧縦一材製、厚肉彫。瞳孔(角形)と鼻孔、上歯と下唇の間を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色、頭髮は墨彩と墨描、高眉は墨彩、白眼は白彩、眼頭と眼尻は墨彩と墨描、唇は朱彩、上歯は墨彩とする。面裏は素地、後縁部を薄く平に彫り残して平滑に仕上げる。瞳孔の内側は墨彩、鼻孔は白彩、唇は淡朱彩、後縁面の上縁は頭髮と同じく墨彩である。

保存状態は表面彩色が一部剥落しており、額や顎の部分にも亀裂がある。面裏は細い刃物で全面に傷をつけたような跡がある。また一部削りとした跡もあり顎や口許が汚れている。

28 女 一面 木製彩色／縦 19.7 幅 13.0 奥 6.2 重量 85.0 天正 12 年 (1583)

面裏墨書銘「瀧尾山／奉進納候／當上人／面／大嶺右衛門佐／大林坊宗尋／天正十二年甲申十一月日氏善(花押)」

頭髮を左右に振り分け、添毛を両側面に垂らす。鼻筋通った小さな鼻、開口して上歯を現す。

<sup>(カ)</sup>桂縦一材製、薄肉彫。瞳孔(角形)と鼻孔、上歯と下唇の間を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色、頭髮は墨彩と墨描、

眉は墨彩、眼頭と眼尻は墨彩と墨描、唇は朱彩、上歯は墨彩とする。面裏は素地、後縁面を薄く平に彫り残して割りあげる。ノミ跡は鼻から顎にかけて少し幅が広く、他は縦に細い丸刀痕を残す。瞳孔と鼻孔、口孔の内側を白彩とする。

保存状態は左鼻翼が割損、全面に後補の表面彩色の剥落があり面裏の顎や頬に汚れがある。

29 女 一面 木製彩色／縦 20.2 幅 12.6 奥 5.9 重量 134.0 慶長 3 年 (1598)

面裏墨書銘「奉納／慶長三年拾月日／當上人道義坊昌雄」

面長の卵形。二重瞼の彫り込み強く、白眼を黒眼で現す。

桂縦一材製、瞳孔(角形)と鼻孔、上歯と下唇の間を割りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。現状は白眼を墨彩、唇を朱彩、上歯を墨彩にする以外は不明である。面裏は素地、全面に浅いノミ跡を残す。瞳孔の内側と面裏は墨彩、鼻孔と口孔の内側を白彩とする。43 番と同じく面裏の瞳孔と眼部を角形に彫る。

保存状態は表面彩色がほとんど剥落する。

30 女(中年) 一面 木製彩色／縦 21.3 幅 13.8 奥 7.3 重量 137.0 慶長 10 年 (1605)

面裏墨書銘「奉寄進／瀧尾山／慶長十年乙巳九月日 塩谷守清／當上人光樹房宗佐」

中年の女。頭髪を振り分け、添毛を両側面に垂らす。高眉を描き、開口して上歯を現す。

桐縦一材製、厚肉厚。瞳孔(角形)と鼻孔、上歯と下唇の間を割りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色彩、頭髪は墨彩と墨描、白眼は白彩、眼頭と眼尻は墨彩と墨描、唇は朱彩、上歯は墨彩とする。面裏は素地、後縁面は薄く平に彫り残して平滑に割りあげる。瞳孔の内側は墨彩、鼻孔は白彩とする。

保存状態は後補の表面彩色がかなり剥落する。

31 女 一面 木製彩色／縦 15.5 幅 10.0 奥 4.5 重量 33.0 寛永 12 年 (1635)

面裏墨書銘「再拝敬白／小笠原右近大夫内／吉田六右衛門／寛永拾貳年／亥六月廿二日」

額に高眉を描き、頭髪を左右に振り分け二条の添毛を両側面に垂らす。白眼をほぼ黒く塗り、口の両端に割り込みを入れる。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔(楕円形)と鼻孔、上歯と下唇の間を割りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色、頭髪は墨彩と墨描、高眉は墨彩、白眼はほぼ墨彩、唇は朱彩、上歯は墨彩とする。面裏は素地、後縁面を薄く平に彫り残して割りあげ、細い丸刀痕を縦状に浅く残す。瞳孔の内側は墨彩、鼻孔と下唇の裏側を白彩とする。

保存状態は、両側面の後補の彩色が剥落する。右側頬に木屎漆による修理の跡がある。

32 女(老年) 一面 木製彩色／縦 20.6 幅 14.5 奥 6.8 重量 247.0 延享 2 年 (1745)

面裏朱漆銘「寂光御宝前／面二ツ／延享二乙丑天／十二月日／忍性坊智龍／妙境坊守妙」

額広く頭髪を左右に振り分け、両側面に垂らす。髪際に低い段差をもうけ眉間と頬、小鼻から顎にかけてシワを刻む老女の相。

桧縦一材製、額から鼻を含む上歯までと、下顎に別材を矧付ける。厚肉彫、瞳孔(楕円形)

と口孔を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色彩、頭髮は墨描、眼球と瞳孔の輪郭は墨描、白眼は薄墨彩、眼頭と眼尻は墨描、唇は朱彩、下脣に産毛を墨描する。面裏は後縁面を厚く平に彫り残して削りあげ、全面に丸刀痕を残して墨を塗る。左瞳孔の内側は白彩、口孔は赤彩とする。

保存状態は表面彩色が後補、その彩色も鼻や顎の部分に剥落がある。

33 女 一面 木製彩色／縦 15.5 幅 102 奥 5.6 重量 75.0 室町時代末期

面裏墨書銘「奉納 瀧尾山御／宝前／鉢石善太郎」

頭髮を左右に振り分け、添毛二条を両側面に垂らす。開口して上歯を見せ、唇を前方に突き出す唇の厚い女面である。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔（楕円形）と鼻孔、上歯と下唇の間を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色彩、頭髮は墨描、高眉は墨彩、白眼は白彩、眼頭と眼尻は墨彩と墨描、唇は朱彩、上歯は墨彩とする。面裏は素地、後縁面を薄く平に彫り残して削りあげ、幅の広いノミ跡を不規則に残す。瞳孔の内側を墨彩、鼻孔を白彩とする。

保存状態は頭頂部や鼻先の彩色が剥落する。

34 女 一面 木製彩色／縦 19.1 幅 12.4 奥 5.8 重量 80.0 室町時代末期

頭髮を左右に振り分け、添毛二条を両側面に垂らす。白眼をはぼ黒く塗り、開口して上歯を現し、下唇を前に突き出す。口の両端に削り込みをいれる。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔（楕円形）と鼻孔、上歯と下唇の間を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色彩、頭髮は墨彩と墨描、高眉は墨彩、白眼は薄墨彩、眼頭と眼尻は墨彩、唇は朱彩、上歯は墨彩とする。面裏は素地、後縁面を薄く彫り残して削りあげ、ノミ跡を不規則に残す。

保存状態は面頂中央右寄りに一部欠損、表面彩色の剥落が面頂右寄りと左右側面にある。桧の脂が表面に滲み出てかなり汚れている。

35 女 一面 木製彩色／縦 18.9 幅 12.5 奥 6.5 重量 88.0 室町末期－江戸初期

額に高眉を描き、頭髮を左右に振り分け、添毛二条を両側面に垂らす。眼尻をさげ、太めの鼻に小さな口を開けて上歯を現し、両口端を上方に削りあげる。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔（楕円形）と鼻孔、上歯と下唇の間を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色彩、頭髮は墨彩と墨描、高眉は墨彩、眼球は白彩、眼頭と眼尻は墨彩、唇は朱彩、上歯は墨彩とする。面裏は素地、後縁面を薄く平に彫り残して削りあげ、ノミ跡を両側面に少し残す。瞳孔の内側は墨彩、鼻孔は白彩とする。

保存状態は、右眼尻から右顎にかけて補修の跡がある。表面彩色も右側面や鼻先に剥落がある。

36 女 一面 木製彩色／縦 22.4 幅 14.2 奥 7.4 重量 142.0 室町末期－江戸初期

## 面裏墨書銘「天海」

若い女。頭髮を左右に振り分け、添毛が複雑に両側面に垂れ、額中央から高眉にかけて7本、高眉の少し上から紐孔近くに6本、高眉から上顎にかけて4本が流れる。白眼を黒く塗り、鼻筋通った小さな鼻に開口して上歯を現し、口の両端に削り込みをいれる。

桐縦一材製、薄肉彫。瞳孔(角形)と鼻孔、上歯と下唇の間を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色、頭髮は墨彩と墨描、白眼は墨彩、唇は朱彩、上歯は墨彩とする。面裏は素地、後縁面を薄く彫り残して平滑に削りあげる。眼球は胡粉下地に墨彩、鼻孔は白彩、口孔の上唇は白彩、下唇は朱彩とする。

保存状態は剥落が全面にある。また面頂左寄りに割損欠失、左眉の下方に虫蝕による小穴がある。

## 37 女 一面 木製彩色／縦 19.8 幅 12.3 奥 6.9 重量 96.0 室町時代

## 面裏墨書銘「□□住人能登房」

卵形、エクボを現す。見開きの強い眼、薄い唇を少し開けて上歯2本を見せる。

桧縦一材製、厚肉彫。瞳孔(円形)と鼻孔、口孔を削りぬく。紐孔は面頂と左側面にある。表面はほぼ全面に細かい丸刀痕がある。当初は胡粉下地に彩色だったが現状は上歯の墨彩、唇の朱彩のみ判明する。白眼も黒く塗った痕跡があり、黒眼だったと思われる。面裏は素地、後縁面を平に彫り残して削りあげ、全面に丸刀痕を不規則に残す。

保存状態は右側面が面頂から右眼尻を通して顎の下縁にかけて割損欠失する。表面彩色も剥落、面頂中央に後補の紐孔がある。紐は新補である。上瞼と唇が磨損する。

## 38 女 一面 木製彩色／縦 22.7 幅 14.1 奥 6.7 重量 151.0 室町末期－江戸初期

細面、エクボを現す。眼頭と眼尻を少し上げ、小さな口を開けて上歯を見せる若い女面。顎の中央縦に細い溝を現す。

桧縦一材製、厚肉彫。瞳孔(円形)と鼻孔、上歯と下唇の間を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。面裏は後縁面を薄く平に彫り残して削りあげる。ノミ跡もなく平滑である。

保存状態は、面頂中央から右側面にかけて縁が割損欠失。瞳孔の下縁も割損、表裏面ともに油煙で真黒である。

## 39 女 一面 木製彩色／縦 17.5 幅 10.4 奥 4.5 重量 89.0 室町時代末期

細面、エクボを現す。切れ長の黒眼に小さな鼻、開口して上歯を見せる。

桧縦一材製、厚肉彫。瞳孔(角形)と鼻孔、上歯と下唇の間を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面部は肌色彩、白眼は黒彩、上歯は墨彩、唇は朱彩とする。面裏は素地、後縁面を厚く彫り残して削りあげ、全面縦に幅広いノミ跡を残す。瞳孔の内側から面裏に墨彩、口孔に朱彩を施す。

保存状態は額や顎に虫蝕があり、面頂中央に円形の埋木がある。表面彩色は後補。紐は新補である。

## 40 女(中年) 一面 木製彩色／縦 20.2 幅 12.6 奥 6.0 重量 140.0 室町末期－江戸初期

面裏陰刻銘「奉納／馬」

細面、エクボを刻む中年の女。左眼尻を少し上げ、左右の眼を違えて現す。開口して上歯をみせ、下唇と顎を少し突き出す。

縦一材製、瞳孔（角形）と鼻孔、上歯と下唇の間を割りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面裏は左後縁面を幅広く、右後縁面は薄く材を残して割りあげ、全面に細く浅い丸刀痕を残す。

保存状態は、面頂から左眼頭を通して顎下縁に割損がある。その割れ目に沿って面頂と額の下方、顎に補修のための小孔がある。右こめかみ上縁と瞳孔に小欠損がある。表裏面ともに油煙で黒く、近年古色仕上げによる修理がなされた。

41 女 一面 木製古色／縦 20.0 幅 11.9 奥 6.0 重量 146.0 室町末期－江戸初期

長方形の中年女の面。瞳孔の左右に稜を立て、小さな鼻に大きな口を開け上下の歯を見せる。顔全体に細い線状の溝を現す。

縦一材製、厚肉彫。瞳孔（角形）と鼻孔、上下の歯の間を割りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表裏面ともに平滑に仕上げる。

保存状態は油煙のため表面彩色は不明。紐は後補である。

42 女（初老） 一面 木製古色／縦 20.2 幅 13.3 奥 6.9 重量 126.0 室町時代

初老の女。眼尻をさげ開口して上下の歯を現す。

縦一材製、薄肉彫。瞳孔（角形）と鼻孔、上下の歯の間を割りぬく。紐孔が左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面裏は後縁面を薄く彫り残して平滑に割りあげる。

保存状態は 左側面の上縁面から左頬側面にかけて割損欠失。面頂右側の一部も割損、右紐孔の下方から下縁にかけても割損する。他に上脛が磨損する。表裏面ともに油煙で黒く、特に面裏は額から右側面にかけて焼け焦げた状態である。また表面彩色の剥落も左面部の鼻梁や頬、唇端にある。

43 鬼神（癡見） 一面 木製古色／縦 20.9 幅 17.1 奥 11.8 重量 329.0 江戸時代初期

額にシワを刻み、眉を隆起させて眼を怒らせ、口を一文字に結ぶ瞋怒相。耳の全形を現す。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔（円形）と鼻孔を割りぬく。紐孔は両耳に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面裏は後縁面を厚く平に彫り残して割りあげ、浅い丸刀痕を規則的に残す。

保存状態は表裏面ともに油煙で黒く、その部分もかなり剥落する。

44 鬼神（牙癡見） 一面 木製古色／縦 21.2 幅 17.7 奥 11.1 重量 310.0 江戸時代初期

額が瘤状に盛り上がり、眉を隆起させ眉間に窘縮をあらわす。驚鼻は鼻孔をひろげ、上歯で下唇を噛み左右に各 2 本の牙を現す瞋怒相。両耳を彫出する。

縦一材製、両側面に別材を矧付け。瞳孔（円形）と鼻孔を割りぬく。紐孔は両耳にうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。現状は油煙で黒く、上歯の朱彩以外は不明。面



裏は後縁面を平に彫り残して削りあげ、右側面に丸刀痕を少し残す。

保存状態は左側面の矧目の左右に6個の小孔がある。現在は1カ所のみ紐で結ぶ。左側面に1本、右側面に2本の鉄鏝が打ちつけてある。この小孔と紐、鉄鏝、表面彩色は後補である。

**45 鬼神（癒見） 一面** 木製古色／縦 21.4 幅 17.2 奥 11.1 重量 306.0 江戸時代初期  
眉は太く隆起し、三角形の鼻に口を一文字に結び顎を突き出す瞋怒相。耳は全形を現す。

桧縦一材製、額の中央と両眉、鼻、両頬、顎に少材を矧付ける。薄肉彫、瞳孔（円形）と鼻孔を削りぬく。紐孔は耳孔に各一をうがつ。表面に紙を貼り、胡粉下地に彩色を施す。面裏は後縁面を厚く平に彫り残して削りあげる。

保存状態は額中央の少材と左眉、右眉の一部が亡失。面裏の左上縁の一部も割損欠失、鼻や顎に補修の跡がある。表裏面ともに油煙で真黒、表面彩色は不明、その部分も剥落する。

**46 鬼神（飛出） 一面** 木製彩色／縦 23.8 幅 18.7 奥 12.8 重量 387.0 寛永 20 年（1643）  
面裏陰刻銘「寄進／大僧正／寛永廿年五月日」

見開いた眼に金属板を嵌め込み、鼻孔をひろげ開口して牙と舌を現す。耳は彫出する。

広葉樹縦一材製。瞳孔（円形）と鼻孔、上歯と舌の間を削りぬく。紐孔は両耳にうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。唇の朱彩以外は不明である。面裏は素地、後縁面を厚く平に彫り残して削りあげ、全面に浅い丸刀痕を残す。

保存状態は表裏面ともに油煙で黒く、表面彩色は不明。その彩色もかなり剥落する。面裏の顎に小さな傷がある。

**47 鬼神（飛出） 一面** 木製古色／縦 21.9 幅 16.9 奥 10.0 重量 103.0 慶安 4 年（1651）  
面裏陰刻銘「奉納／本宮山／當上人大阿長雄乗音坊／慶安四年辛卯三月日」

眉間に窘縮を現す。眉を逆立て見開いた眼に金銅板を嵌め込み、鼻翼をひろげ開口して牙を見せ顎を突き出す。

広葉樹縦一材製。瞳孔（円形）と鼻孔、上下の歯の間を削りぬく。紐孔を両耳にうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。現状は眼球の周辺と唇の朱彩以外は不明である。面裏は後縁面を平に彫り残してほぼ平滑に仕上げる。

保存状態は表裏面ともに油煙で黒く、当初の彩色はほとんど不明である。顎の中央に一部欠損があり、右口端より下縁に割損がある。

**48 鬼神（飛出） 一面** 木製古色／縦 20.0 幅 14.7 奥 8.2 重量 155 慶安 4 年（1651）  
面裏陰刻銘「奉納／本宮山／當上人大阿長雄乗音坊／慶安四年辛卯三月日」

頬の肉をそぎ落し、ギョロリとむき出した眼、開口して上下の歯と舌を丸めて現す。

桧縦一材製、薄肉彫。瞳孔（円形）と鼻孔、上下の歯の間を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。現状は油煙で黒く、舌の朱彩以外は不明である。面裏は素地、後縁面を薄く彫り残して削りあげ、全面に規則的に浅い丸刀痕を彫り残す。

保存状態は面頂中央に欠損がある。

49 鬼神（飛出） 一面 木製古色／縦 22.7 幅 18.6 奥 12.3 重量 37.0 江戸時代初期

怪貌。両眼を見開き、鼻孔をひろげ大きく裂けた口から牙を現す。

桧縦一材製。瞳孔（円形）と鼻孔、上下の歯の間を割りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。眼球には金銅板を嵌め込む。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面裏は後縁面を厚く平に彫り残して割りあげる。面の外側は厚く、中心部を薄く彫出する。

保存状態は表裏面ともに油煙で煤けて黒く、表面彩色は不明。特に裏面は焼け焦げた状態である。面頂から左鼻孔の内側を通して顎の下縁に割損がある。また右鼻孔の内側から顎の下縁にも割損があり、下歯を含んだ顎の部分が欠失。この部分は近年の修理で復元され、古色仕上げもこの時に行なわれた。

50 鬼神（阿形） 一面 木製古色／縦 25.4 幅 18.0 奥 11.5 重量 380.0 江戸時代初期

頭部に段差をつける面長の瞋怒相。額に放射状の筋を立て、怒りの形相すさまじく大きく裂けた口中に小さな牙と舌先を現す。

縦一材製。鼻先は別材。厚肉彫。瞳孔（円形）と鼻孔、口孔を割りぬく。左紐孔は左耳の後縁面より表面に貫通する。右紐孔は裏面から表面に貫通する。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面裏は後縁面を厚く彫り残して平滑に割りあげる。

保存状態は表裏面ともに油煙で真黒、特に面裏は焼け焦げた状態である。表面も全面に傷があり、左眉の上方から左眼尻にかけて亀裂欠損。また下歯の左牙がなく、左口端から下縁にかけても割損がある。面裏の右後縁面の紐孔と、その下方2ヵ所にも欠損がある。鼻先の別材は後補である。

51 鬼神（阿形） 一面 木製古色／縦 16.4 幅 11.9 奥 7.8 重量 135.0 室町時代

面頂の両側に耳状の角を生やす怪異な形相。落ち窪んだ眼に眉を垂らし、鼻翼をひろげわずかに裂けた口から上下の歯と舌を現す。

縦一材製、薄肉彫。瞳孔（円形）と鼻孔、上下の歯の間を割りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に割りあげる。

保存状態は表裏面ともに油煙で真黒、表面彩色も不明、その彩色も全面に剥落がある。

52 鬼神（阿形） 一面 木製古色／縦 27.1 幅 20.8 奥 11.6 重量 464.0 室町末期－江戸初期

面裏陰刻銘「上」

忿怒相。円頂の中央が縦に隆起し、額に三条のシワを波形に刻む。眉は太く隆起して上瞼を覆い、三角状の大きな鼻は鼻翼をひろげて頬骨を突き出す。開口して上下の歯を揃え、下唇と顎を突き出す。

桧縦一材製。瞳孔と鼻孔、眉は裏側に割りぬく。頭部と鼻下、顎に植毛の跡がある。表面は眼球にノミ痕を残すが、他は平滑である。面裏は素地、後縁面は厚く平に彫り残し口の周辺から目、鼻、額と順次段差をもうけながら深く彫る。額や顎は厚肉彫、その他は薄く彫る。

保存状態は左後頭部の後縁面が割損欠失。右小鼻の外側と左上歯の奥に削りすぎによる小穴

がある。植毛も亡失、表裏面とも油煙により黒く表面彩色は不明である。虫蝕による小穴もある。眼孔と上下歯のクギは銅板鍍金を留めるためのものと思われる。

53 鬼神(阿形) 一面 木製古色／縦 23.3 幅 17.9 奥 8.5 重量 265.0 室町時代

釣りあがった眼や大きな鼻、無気味に開いた口など異形な風貌である。

縦一材製、厚肉彫。瞳孔(楕円形)と鼻孔、上下の歯の間を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。ちょびひげを植毛した跡がある。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。現状は歯の白彩以外は不明である。面裏は後縁面を平に彫り残して削りあげ、ノミ跡を不規則に残す。

保存状態は、鼻柱に沿って削りすぎによる小穴が左右にある。面頂から左瞳孔の内側を通して上唇に割損の跡がある。同じく右口端から下縁にもある。表面の顎に面裏には貫通しない丸穴がある。表裏面ともに油煙で黒く、表面彩色は不明。特に面裏の上辺が焼け焦げた状態である。

54 鬼神(阿形) 一面 木製古色／縦 36.0 幅 15.5 奥 7.4 重量 375.0 室町末期－江戸初期

面長の忿怒相、長い角を現す。眼を逆立て、眉間に窘縮と鼻柱に数条のシワを刻み、開口して赤い舌と牙を見せる。

広葉樹縦一材製、厚肉彫。瞳孔(円形)と鼻孔、上歯と舌の間を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面裏は後縁面を彫り残して削りあげる。顎の部分は水平に彫って削りあげる。ノミ跡は鼻と顎にあり、他はほぼ平滑である。

保存状態は眉間に取り付けたものと下歯の右牙が欠失。上歯の左右牙も割損する。表裏面ともに油煙で黒く、表面彩色はほとんど不明。一部剥落もある。

55 鬼神(阿形) 一面 木製古色／縦 20.3 幅 15.2 奥 9.2 重量 220.0 室町末期－江戸初期

鼻梁太く、顎骨を突き出した怒りの表情である。

桧縦一材製。前面材は額から眼部までと、鼻から上歯までの上下二材を矧付ける。厚肉彫。瞳孔(円形)と口孔を削りぬく。鼻孔は窪めるが面裏には貫通しない。表面は平滑に仕上げ、紙を貼ったうえに胡粉下地に彩色を施す。面裏は後縁面を厚く彫り残して削りあげ、幅の広い丸刀痕を残す。

保存状態は額から眼部にかけての材が亡失、顎の部分も割損欠失。表裏面ともに油煙で黒く表面彩色は不明、その部分もかなり剥落する。紐は新補である。

56 鬼神(阿形) 一面 木製古色／縦 20.6 幅 14.3 奥 6.5 重量 150.0 室町時代

円頂の忿怒相。眉を釣り上げ、大きく見開いた眼の輪郭に段差を施す。

桐縦一材製、厚肉彫。瞳孔(円形)と鼻孔を削りぬく。紐孔は両側面に各3ヵ所あり、左側面の上と真中の紐孔は面裏から表面に貫通する。下の紐孔は後縁面が欠落して紐孔が溝状に現る。右側面上下の紐孔も同様の状態である。真中は面裏から表面に貫通する。表裏面とも平滑

に仕上げ、表面に朱漆を塗った痕跡がある。面裏は後縁面を厚く彫り残して割りあげる。

保存状態は面頂より右小鼻内側から上歯にかけて割損、右小鼻外側より顎の下縁にかけても割損、さらに左口端から下縁にかけても割損しており、下歯から顎の部分が欠失している。表面彩色は剥落、面裏の後縁面もほぼ全面にこすった痕跡がある。全面に虫蝕があり汚れて黒くなっている。

**57 鬼神(吽形) 一面 木製古色／縦 23.1 幅 16.4 奥 9.5 重量 391.0 室町時代**

眼窩落ちこみ、鼻翼から口許に深いシワを刻み、上歯で下唇を噛む老貌相。

縦一材製。瞳孔(円形)と鼻孔を割りぬく。紐孔は耳の上縁にうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。鼻下と顎に植毛の跡がある。面裏は後縁面を厚く平に彫り残して割りあげ、顎に縦の丸刀痕を残し他は平滑に仕上げる。

保存状態は左側面が面頂から顎にかけて割損欠失、右耳後部も割損欠失、左口端が欠損する。表裏面ともに油煙で黒く、特に後縁面上部と額の部分が焼け焦げた状態で表面彩色は不明である。

**58 鬼神(吽形) 一面 木製古色／縦 20.0 幅 17.9 奥 9.2 重量 252.0 室町時代**

額にV字形のシワを刻み、眉間に窘縮を現す。両眉は細く隆起し、見開いた眼で左右をにらみ口をへしこませて顎を突き出し、頬に稜を立てる。

桧縦一材製、顎の前面部は別材。瞳孔(円形)と鼻孔を割りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面を平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。現状は古色で詳細は不明だが、眉と眼部に墨彩が認められる。面裏は額にノミ跡を残し、他は平滑に割りあげる。

保存状態は面頂から左眼頭を通して顎の下縁にかけて割損。面裏の額と左鼻孔脇、顎に補修した時の小孔がある。また面頂裏側の割損周辺と左眼尻下方に欠損部分がある。紐は新補。それらの個所の修理と古色は近年行なわれた。

**59 鬼神(吽形) 一面 木製古色／縦 21.5 幅 16.4 奥 12.1 重量 381.0 室町末期－江戸初期**

鼻高。眼を逆立て、口をへの字に結んだ瞋怒相。面頂を横一直線に切る。

広葉樹縦一材製、厚肉彫。瞳孔(円形)と鼻孔を割りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面を平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面裏は後縁面を彫り残して割りあげ、細い丸刀痕が目鼻口に向かって放射状にある。

保存状態は表裏面ともに油煙で真黒、表面彩色も不明である。

**60 鬼神(吽形) 一面 木製古色／縦 19.2 幅 15.1 奥 7.5 重量 262.0 室町時代**

鼻柱太く、口を一文字に結んで眼を釣り上げた瞋怒相。頬骨突き出た六角形の顔も特異である。面頂と顎を横一直線に切る。

縦一材製、瞳孔(円形)と鼻孔を割りぬく。紐孔は左右とも後縁面から表面にうがつ。表面にわずかなノミ跡を残す。面裏は後縁面を厚く彫り残し、丸刀痕を不規則に残して割りあげる。

保存状態は瞳孔に割損がある。額上部中央の小孔は当初のものかは不明である。表裏面とも

に油煙で黒く、表面彩色は不明。面裏はかなり焼け焦げた状態である。

**61 鬼神（吽形） 一面 木製古色／縦 17.8 幅 12.8 奥 4.6 重量 100.0 室町時代**

奥行浅く額の狭い瞋怒相。眼を見開き、への字形に結んだ口を一条の溝で現す。

桧縦一材製、瞳孔（円形）と鼻孔を削り抜く。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げる。面裏は素地、後縁面を厚く平に彫り残して削りあげる。顎の部分はほぼ水平に彫って削りあげる。

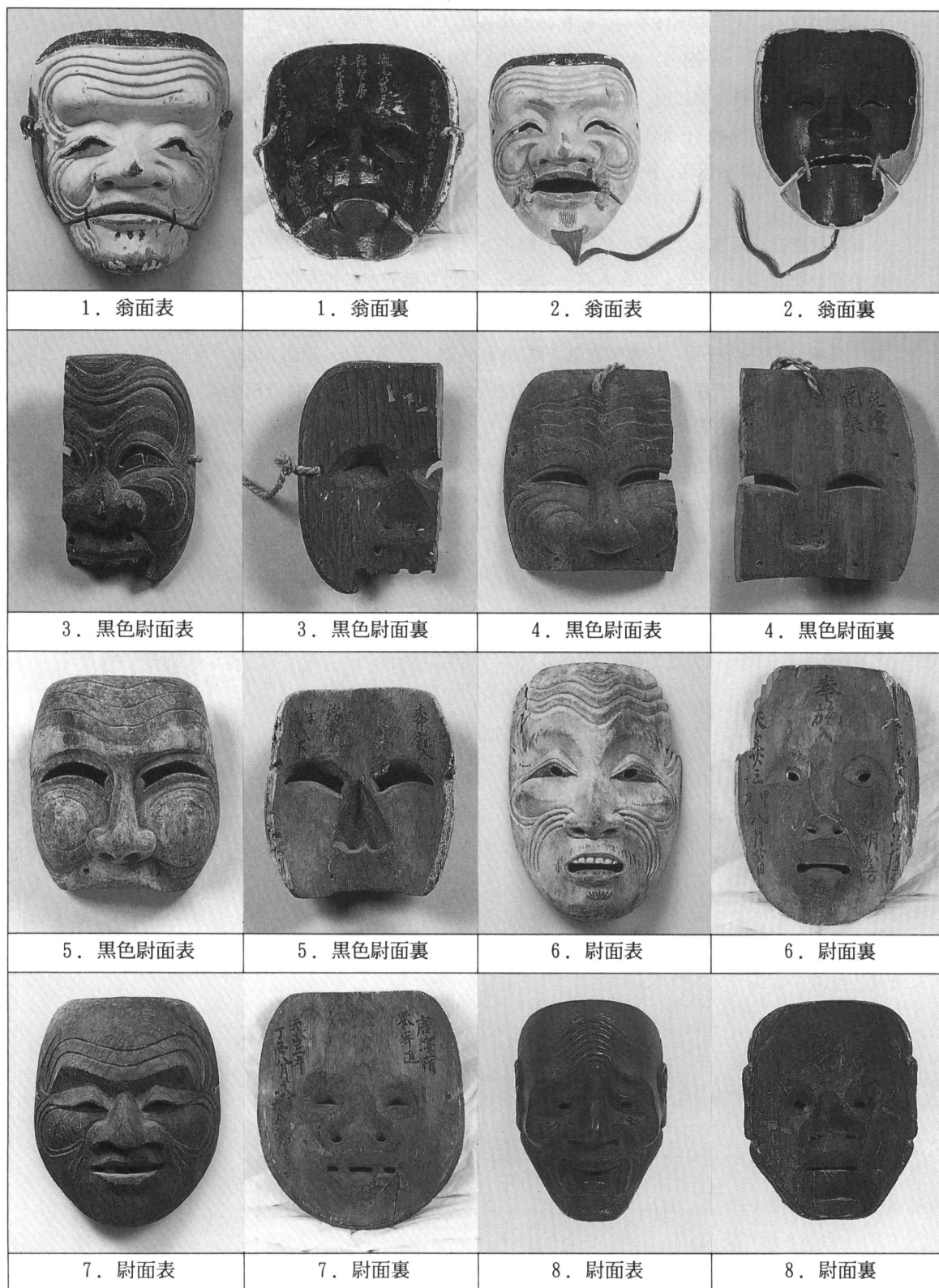
保存状態は、面頂より右鼻の外側から顎の下縁にかけて割損。この割損を紐で結んで補修した小孔が眉間の少し上と口の左右各一にある。紐は新補である。左瞳孔が眼頭にかけて欠損する。表裏面ともに油煙で黒く、特に表面の右側が焼け焦げた状態である。表面彩色は不明。

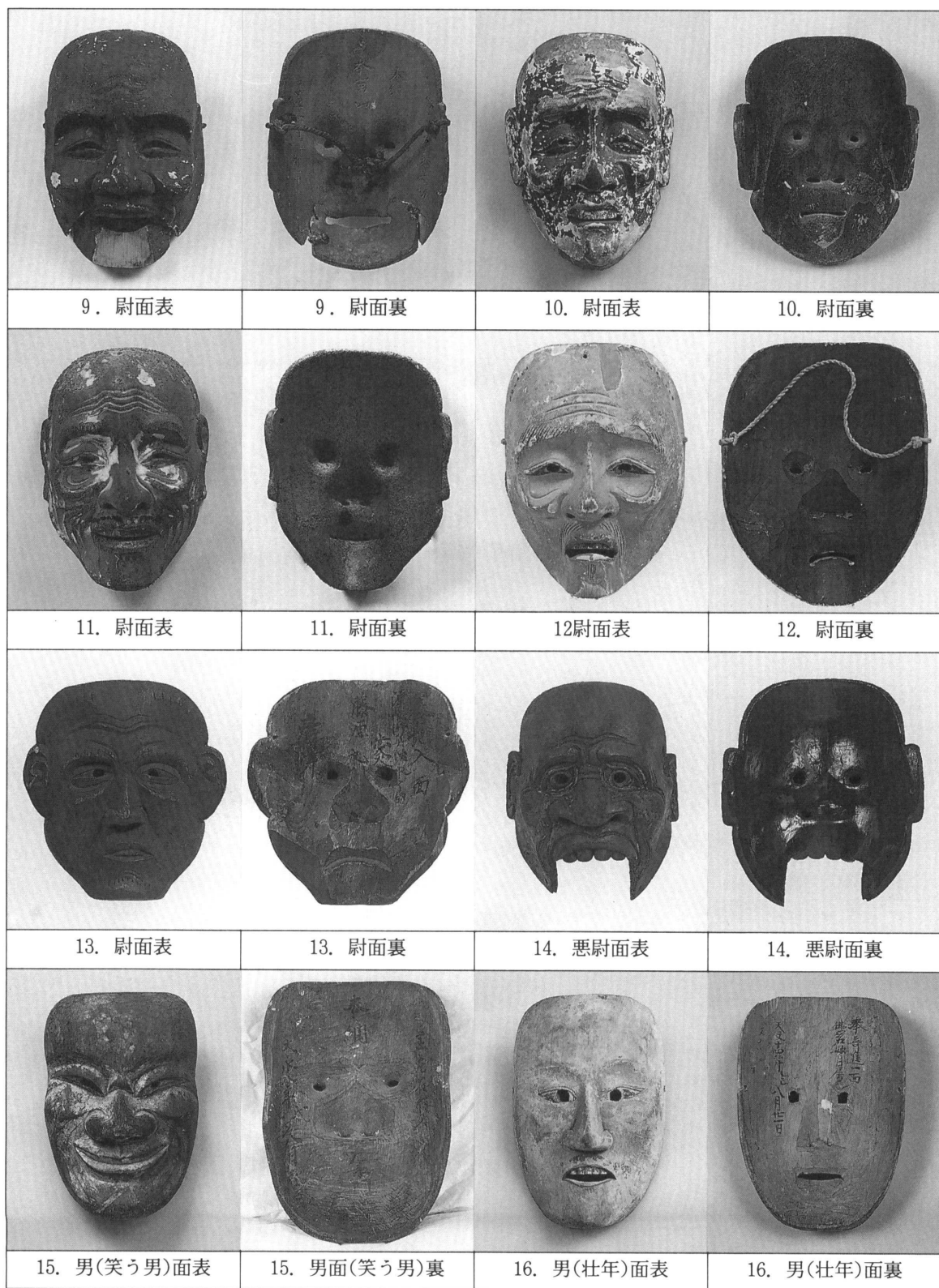
**62 鬼神（吽形） 一面 木製古色／縦 20.4 幅 14.7 奥 6.8 重量 318.0 室町時代**

面頂と顎を横一直線に切る長方形の瞋怒相。眼を釣り上げ、眉間に窘縮を現わす。口はへの字に曲げ、鼻翼から顎にかけて一条の深いシワを刻む。





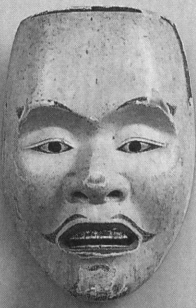





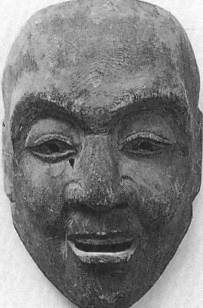





縦一材製、厚肉彫。瞳孔（円形）と鼻孔を削りぬく。紐孔は左右の縁に各一をうがつ。表面は平滑に仕上げ、胡粉下地に彩色を施す。面裏は後縁面を平に彫り残して削りあげる。顎の部分は水平に彫って削りあげる。

保存状態は油煙のため黒く、表面彩色は不明、一部剥落もある。面裏は両側面から下縁にかけて焼け焦げた状態である。

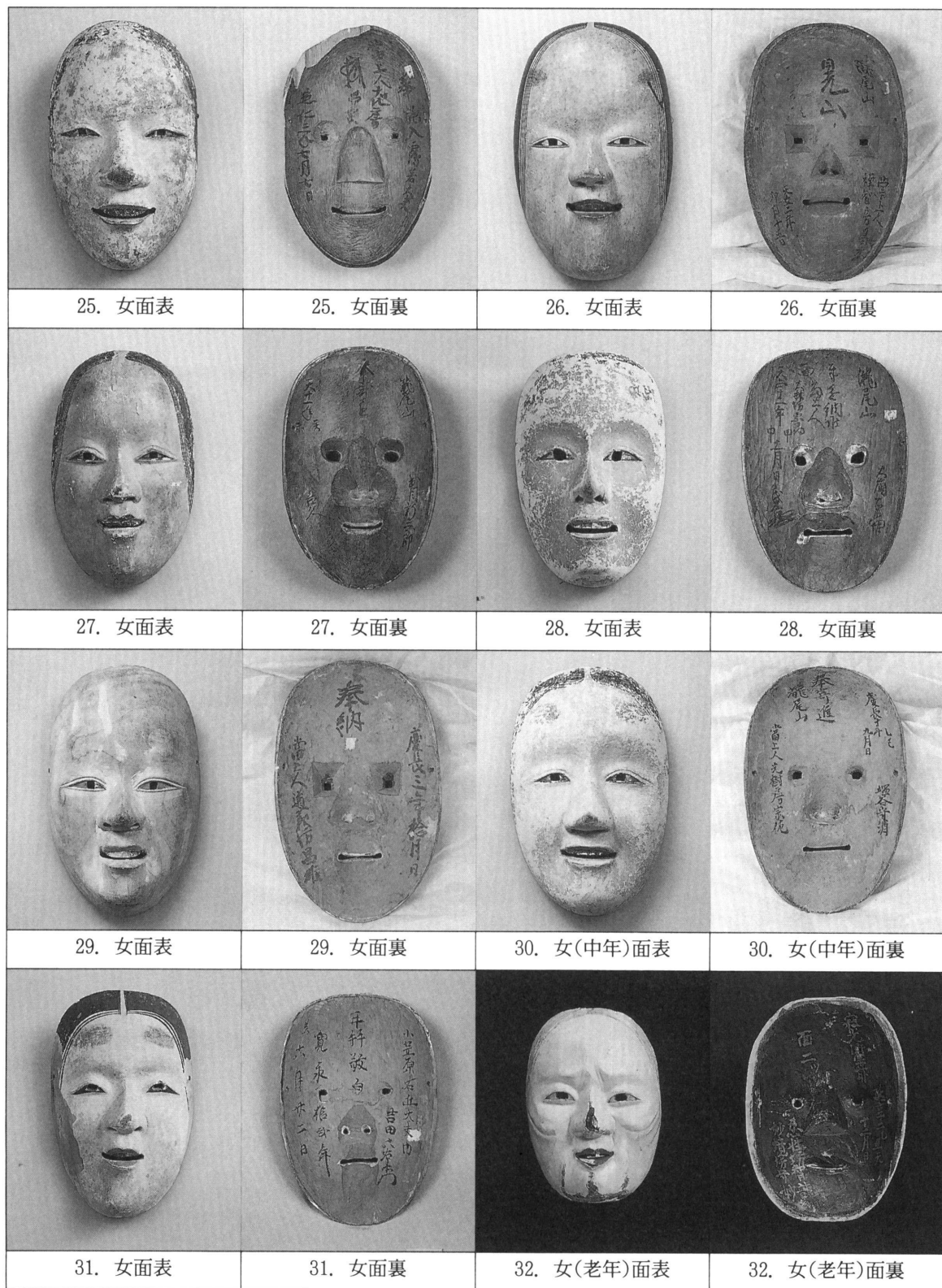


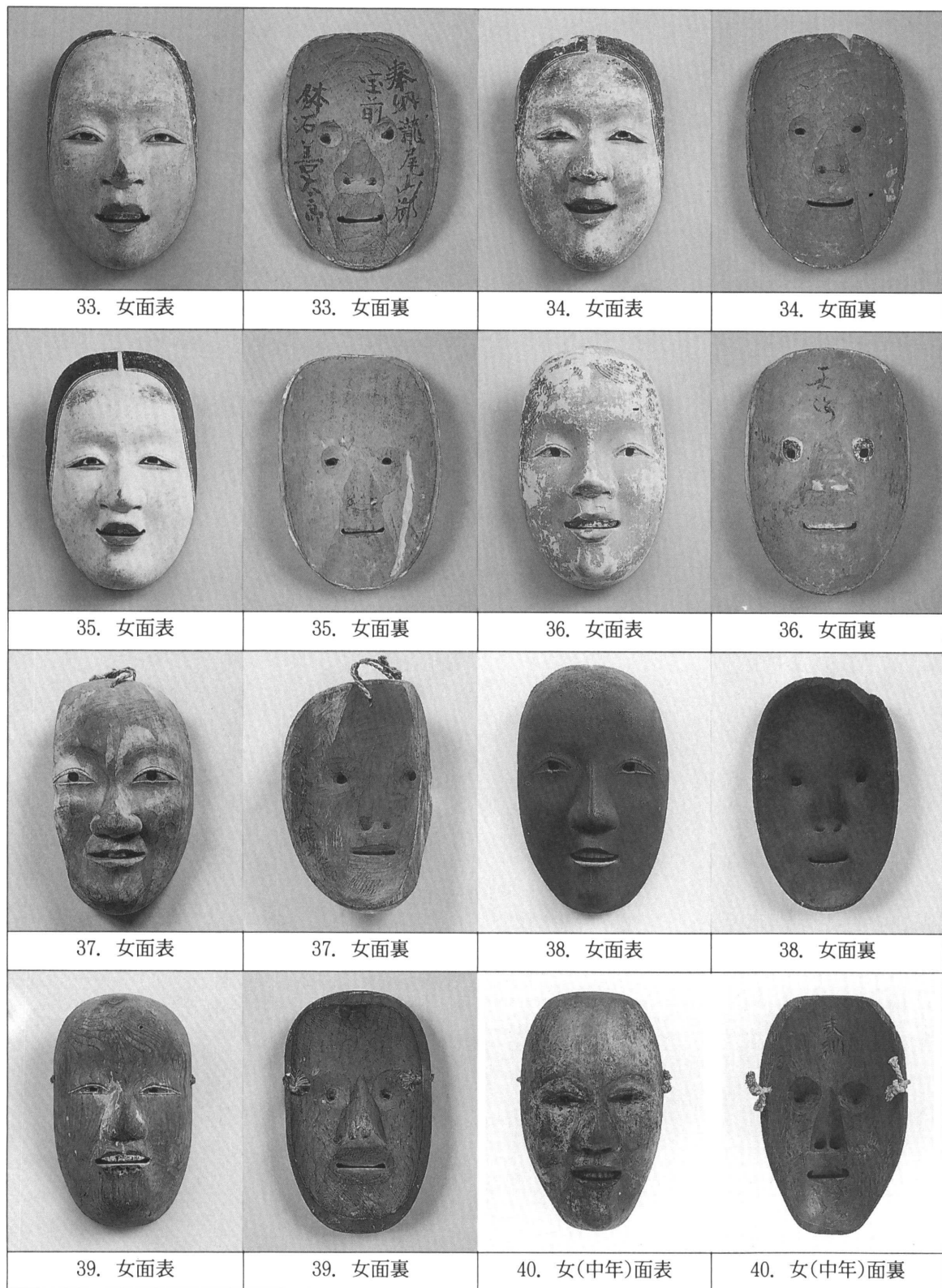




			
17. 男(壮年)面表	17. 男(壮年)面裏	18. 男面表	18. 男面裏
			
19. 男(壮年)面表	19. 男(壮年)面裏	20. 男面表	20. 男面裏
			
21. 喝食面表	21. 喝食面裏	22男(初老)面表	22. 男(初老)面裏
			
23. 男面表	23. 男面裏	24. 男(老年)面表	24. 男(老年)面裏







			
41. 女面表	41. 女面裏	42. 女(初老)面表	42. 女(初老)面裏
			
43. 鬼神(癒見)面表	43. 鬼神(癒見)面裏	44. 鬼神(牙癒見)面表	44. 鬼神(牙癒見)面裏
			
45. 鬼神(癒見)面表	45. 鬼神(癒見)面裏	46. 鬼神(飛出)面表	46. 鬼神(飛出)面裏
			
47. 鬼神(飛出)面表	47. 鬼神(飛出)面裏	48. 鬼神(飛出)面表	48. 鬼神(飛出)面裏





			
57. 鬼神(吽形)面表	57. 鬼神(吽形)面裏	58. 鬼神(吽形)面表	58. 鬼神(吽形)面裏
			
59. 鬼神(吽形)面表	59. 鬼神(吽形)面裏	60. 鬼神(吽形)面表	60. 鬼神(吽形)面裏
			
61. 鬼神(吽形)面表	61. 鬼神(吽形)面裏	62. 鬼神(吽形)面表	62. 鬼神(吽形)面裏